

奄美の風だよ

NO. 7

(冬号 : 2)

2002. 2. 1

A N C : News Letter

『 イイギリ 』の実

大和村 (大和浜—大棚間 旧道)

2002, 1, 14 撮影

奄美にも冷たい北風が吹く季節になりました。時には暖かい日もありますが、近くの山を見渡してもさすがに冬景色といった感じで、木の葉は深緑色になっていて道を歩いている草花もなかなか見あたりません。しかし、よくよく見てみると花を咲かせたり実をつけている植物がありました。中でも人目をひく真っ赤な実をたくさんつけているのが「イイギリ」の木です。どんよりと曇った日の多いこの季節には、一段と鮮やかに写ります。この他にオオムラサキシキブもかわいい紫色の実をつけていました。また、サクラツツジは鮮やかさはありませんがうす紅色した花を咲かせています。淡い色の花びらは、やわらかく優しさを感じさせてくれます。

この時期奄美は、鮮やかな濃い桃色の「ヒカンザクラ」の花が咲き、地元の人々を楽しませてくれますが、時にはいろんな植物を眺めてみるのもいいものです。

寒いなかにも春の気配が感じられます。



イイギリの実



サクラツツジ



オオムラサキシキブ

協議会活動報告



★第2回【やせいのいきもの絵画展】テーマは『虫』でした。

2001年12月8日（土）～2002年1月31日（木）まで開催

第2回やせいのいきもの絵画展が奄美野生生物保護センターと協議会の共催で開催されました。今回は「虫」をテーマに募集しました。今回も奄美内外から、よく観察して描かれているものや、個性的な作品など数多くの応募があり、応募校は10校、個人応募者が3人で、昨年の絵画展よりも83点多い230点の応募がありました。今回は、「いきもの大賞」「いきいき賞」「ユニーク賞」の3部門に分けて審査を行いました。

表彰式が12月9日（日）奄美野生生物保護センター企画展示室内で行われ、入賞した12名の児童生徒たちに、奄美自然体験活動推進協議会会長 永田 武光大和村長から「子供たちの生き物や自然を大切にしようとする優しい気持ちが表れている。これからも生き物について調べて勉強してください。」と挨拶があり、入賞者に賞状と副賞が贈られました。

いきもの大賞を受賞した竹内君は、すごうれしそうでした。絵画展をご覧になった方からは、「来年はぜひ出品したい」「どの作品も特徴がよく表れている、感激しました。」等の感想文が寄せられていました。ご参加ありがとうございました。応募されたみなさんには絵画展終了後参加賞をお送りします。

次回の絵画展にも多くの方の応募をお待ちしております。

絵画展展示



表彰式

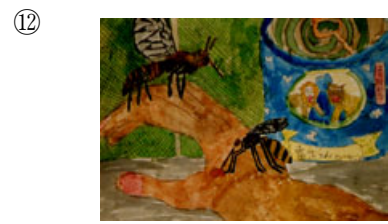
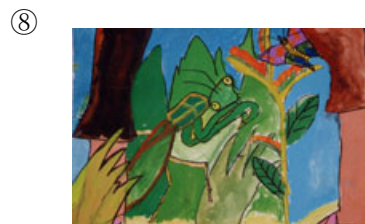
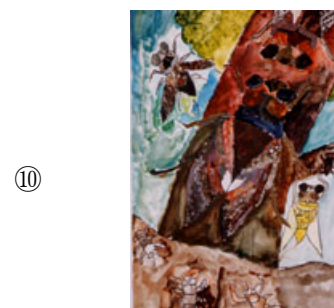
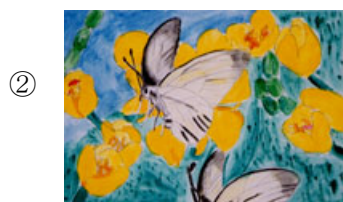
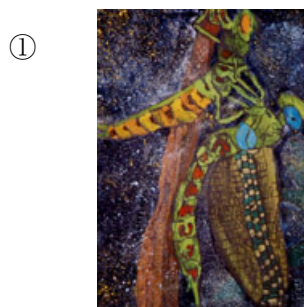


記念撮影



入賞者および作品の紹介

賞	入賞者	題名	学校名(学年)
いきもの大賞	①竹内 捷人(はやと)	ギンヤンマの羽化	手花部小3年
	②中山 香	モンシロチョウ	大和小6年
いきいき賞	③越間 萌	きれいなチョウ	名瀬小1年
	④碓山 琴巳	オニユリとジャコウアゲハ	手花部小3年
	⑤蓑輪 優輝子	いろんな色の木にいるルリボシカミキリ	阿木名小4年
	⑥中島 すみれ	草むら	第一鹿屋中2年
ユニーク賞	⑦たもつ ゆうじ	かぶとぐんだん	阿木名小2年
	⑧上久保 千波	カマキリの狩り	阿木名小3年
	⑨市田 泰海	じがばち	大和小3年
	⑩川畑 秀平	リュウキュウアブラゼミ	名音小5年
	⑪市田 圭乃	ア リ	大和小6年
	⑫園田 茜	おれは蚊だけ	伊子茂小6年



第2回やせいのいきもの絵画展参加校名 (230作品)

【応募校】

・阿木名小学校 (55点) ・薩川小学校 (2点) ・伊子茂小学校(9点) ・戸口
小学校 (12点) ・大城小学校 (23点) ・小宿小学校 (6点) ・大和小中学校
(75点) ・大柵小学校 (12点) ・名音小学校 (27点) ・手花部小学校 (6点)

【個人】

・第一鹿屋中学校 (1点)
・名瀬小学校 (2点)

『絵画展をご覧になった方からの感想』

【絵画展掲載記事】

◆平成13年12月10日大島新聞

◆平成13年12月11日南海日日新聞



第56回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい

◆ 参加者募集 ◆

野鳥とのふれあいを深め、人と野鳥や自然との共生についてみんなで考える愛鳥週間の中心行事で、『第56回全国野鳥保護のつどい』が、笠利町の奄美パークで開催されます。奄美の豊かな自然と貴重な野鳥のことについて少しでも関心を持っていただければと思い、下記の要項で参加者を募集いたします。ぜひこの機会にご参加ください。

日 時 : 平成14年5月12日

場 所 : 鹿児島県大島郡笠利町 「奄美パーク」 参加無料

【大会内容】

- ◆早朝探鳥会 午前7:00～8:00 (希望者のみ)
- ◆場 所 笠利町(大瀬海岸)・龍郷町(奄美自然観察の森)
- ◆記念式典等 午前9:20～11:30

歓迎アトラクション・島唄・野生生物保護功労者表彰・愛鳥の誓いなど

【応募要項】

◆応募資格

どなたでも応募できますが、小学生以下の参加には、保護者の同伴が必要です。

◆応募方法

市役所及び各町村役場に参加申込書がありますのでご利用ください。また、官製はがき等で応募する場合は、参加申込書に記載された必要事項をすべてご記入ください。

◆応募期間

平成14年1月10日(木)～2月22日(金)まで 当日消印有効

◆参加者の決定

参加決定した方には、3月中頃までに入場券を送付し、参加に関する詳細をお知らせいたします。

◆その他

- ・参加者には記念品があります。
- ・早朝探鳥会だけの参加はできません。
- ・当日は入場券を持参していない方の入場はできません。

応募及びお問い合わせ先

第56回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい
鹿児島県実行委員会事務局(県庁環境保護課内)
電話番号 099-286-2546

主 催 : 環境省・(財)日本鳥類保護連盟
鹿児島県

第56回全国野鳥保護のつどいイベント

「人と自然が共生する奄美を語る夕べ」

千石 正一先生と宮崎 緑さんが講演

平成14年5月12日笠利町の奄美パークで開催される、愛鳥週間の中心行事である第56回全国野鳥保護のつどいのイベントとして「人と自然が共生する奄美を語る夕べ」が県・県教育委員会・環境省奄美野生生物保護センター・同つどい実行委員会の主催で、名瀬市の奄美文化センターで（1月26日）開催されました。千石正一先生（財）自然環境研究センター研究主幹と、宮崎 緑（奄美パーク園長・千葉商科大学助教授）両氏の講演がありました。テレビ番組「どうぶつ奇想天外」でおなじみの千石正一先生は、「奄美の森はタイムカプセル」と題し、奄美の固有種（爬虫類・両生類）について話されました。世界中でも珍しく奄美にしかない固有種について（指が5本あるオットンガエルなど）ビデオやスライドを使って紹介されました。途中でスライドが壊れて中断するというハプニングもありましたが、最後まで奄美の貴重な固有種について熱心に解説されました。宮崎 緑さんは、「地球にやさしい国際感覚」と題し、自然の緑と関連づけてご自分の名前が同じ緑であることや、着けてきた着物の色が緑であることなどユーモアを交えて話され、会場の雰囲気をごまかせながら生物や自然とのふれあいの大切さを講演されました。お二人の講演は、すべて手話通訳されていました。

『講演の掲載記事』

{ 南海日日新聞 }

{ 大島新聞 }

地域紹介

龍郷町

(奄美自然観察の森)

龍郷町は、奄美北部の名瀬市と笠利町の間位置しています。東に太平洋、西に東シナ海をのぞみ、奥深い長雲の森や、太古の昔隕石によってできたといわれる奄美クレーターなどがあり、平地や深い森、長い海岸線などバリエーションに富んだ自然の多く残る町です。

その中でも、長雲峠にある奄美自然観察の森は、貴重な動植物が多く生息する自然観察には最適な施設となっています。この森は園内に遊歩道が整備され、3箇所ある展望台からは、息を飲むほどのすばらしい眺めを体験することができます。また日本で一番早い桜の開花場所として、花見の名所にもなっています。また、夏にはホタル観察が可能で、秋にはシイの実などの自然の恵みを観察することができ、太平洋を望む展望台ではお正月の初日の出のスポットとしても有名であるという、まさに年間を通して楽しめる場所となっています。ぜひ休日などにご家族そろっておこしになってはいかがでしょうか。



名瀬市街地から車で40分
龍郷町役場から車で10分



展望デッキからの展望



桜の時期にはたくさんのお客が

◆◆◆このコースで見られる主な野生生物◆◆◆

植 物	ヒカンザクラ	リュウキュウエノキ	ヤッコソウ
	ヤンバルアワブキ	ギョボク	ツツジ類・ラン類
動 物	ルリカケス	アマミヤマガラ	リュウキュウアカショウビン
	オーストンオオアカゲラ	リュウキュウアサギマダラ	アマミマルバネクワガタ

オオミス君が空に帰った日

昨年の11月13日に弱って飛べずにいるオオミスナギドリが保護・収容されました。骨折などの外傷はなく、栄養状態が改善されれば野生に復帰できると判断され、奄美野生生物保護センターで飼育されていました。それまでに16日、20日の2回、放鳥の試みがされましたが、いずれも自分で飛び立てるような状態ではなく、放鳥を断念してセンターにつれ帰りました。これは、ルリカケスの研究に奄美大島に来島していた中村さんが、放鳥したときの記録です。

2001年11月22日：晴れのち曇り

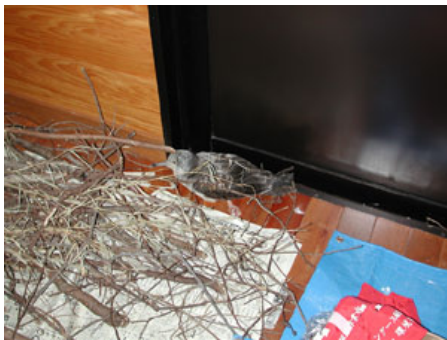
良い天気だが、風がほとんどなかった。今日の放鳥はやめいつも通り餌やりに向かう。予報によると23日は風がやや強いらしい。畑島さんによると、会議室の特製飼育箱を脱走したオオミス君は展示棟の一番奥、倉庫の手前まで行っていらしい。昨日の帰りにドアをしめ忘れてたのに今さら気付いた。餌やりの前に体重測定をしたが、前日の餌やり前よりも少し痩せている。心無しか元気がないようにも見える。ちょっと心配だったので23日の放鳥に備えて朝と夕方の2回魚を与える事にして、朝の分の魚（ワカサギ）を5匹食べさせた。夕方には魚を4匹与えた。



2001年11月23日：曇り

9:19

会議室に入ると例によってオオミス君は飼育箱を脱走していた。ドアをきちんと閉めていたので、今日は部屋の隅にある、クラフト教室に使った枝の束の陰に隠れていた。毎日脱走するくらい外に出たがっているのなら、放鳥した方がいいという動物病院の半田先生の話の思い出した。



9:24

放鳥の前にチェックしないといけない事が2つ、それは羽ばたきと翼の撥水能力だ。餌の魚を解凍している間にチェックした。体を持ち上げると力強く羽ばたいた。バランスの取れた羽ばたきだ。これなら飛べる（はず）。次は水滴を翼に落としてみる。海上を飛ぶこの鳥にとって、羽根が水を吸ってしまうような事は致命的だ。ちょっと不安だったけど、まるで傘の上に落ちた雨粒のように水は水滴となって下に落ちて行った。これなら大丈夫。

9:37

餌やり前の体重チェック。昨晚の餌やり前とほぼ同じ値となった。これで同じように餌をあげれば、最初に測定した時とほぼ同じ値になるはずだ。

9:43

最後のメニューは魚5匹、ビタミンをまぶしてから餌を食べさせる。今日は昨日に比べてとても元気だ。持つと一生懸命足をバタつかせたり、魚を押し込む手に噛みついてくる。噛まれると痛いけどこれだけ元気だと顔もほころぶ。餌やり後の体重は424g。最初の体重測定時の値(418g)に戻った。

10:13

食後は少し休ませ、いよいよ放鳥のため車に乗せる。少しでも落ち着くようにと、今までねぐらに使っていた箱の中に入れる。目的地は昨日病院からの個体を放した知名瀬の崖だ。車の中では箱を突いたり、ゴソゴソ動いている。もうすぐ外に出られるぞ。

10:37

放鳥とは言っても、そのやり方はシンプルで、両手の掌にオオミス君をのせ、その手を空に向かってかざすだけ。投げたりしないで、自分で風をつかんで飛ばせないといけない。だから飛ぶまでずっと手は挙げっぱなし。オオミス君が飛びたいと思う風が来るまでは我慢我慢。それと双眼鏡で視野内にカラスがいないかを確認。いるとちょっかいを出すから、下手をするとオオミス君が墜落してしまう。

放鳥準備オールグリーン。の風を感じたオオミス君は早くも飛び出そうと翼を広げている。空に手をかざす。そして・・・「あっ」といった瞬間、オオミス君は風をつかんで手から飛び立った。崖を少し降下して、でも力強い羽ばたいて上昇。昨日のように真っ直ぐ沖へ、ではなく少し流されつつ西へと飛んで行ったが、双眼鏡で見える範囲内では異常なし。放鳥シーンを撮り逃した山下さんも、オオミス君の飛んで行く写真を見事に納めていた。元気に生きろよ！



放鳥を終えて

その日は午後から割と強い雨が降った。放したオオミス君は大丈夫かふと不安になったけど、今となってはもう自分達にできる事はない。保護された鳥を放鳥する事は、結局は「自分の見える範囲内で無事なら成功」だ。自分の視野から消えた瞬間に墜落したり、何かに襲われたとしても、それが視野の外の話なら、放鳥成功の結果が変わる事はない。あれから知名瀬付近でオオミスナギドリが保護されたという連絡はない。それは無事に飛んで行ったからかもしれないし、人の目に付かないところで死んでいる事だって否定は出来ない。

もしそこに傷付いた鳥がいて放置すれば100%死ぬ。でも保護してやる事で1%でも生き残る可能性が増えるなら、それにかける事を「自己満足」だと言われても自分は構わない。「助けたい」という心に嘘をつかない分、間違った事をしてとは思わない。人に保護される時点で、もう自然界で生きて行く事はできないとよく言うけど、それで割り切るには余りにも辛いから人は傷ついた動物を保護し、介護し、放してやるんじゃないか、自分は思う。

中村 友洋 (Nakamura Tomohiro)

冬に見られる野生生物

※参考文献:

琉球弧野山の花図鑑, 図鑑奄美の野鳥, 山溪ハンディ図鑑7
・東洋のガラパゴス

「アマミアオガエル」 アオガエル科 全長3~5cm前後

生息分布：奄美大島・徳之島

カエルの卵は水中で見かけるのが普通であるが、アオガエルの仲間は、水際の木々の枝や草に泡状の卵塊をつくり卵を産む習性がある。産卵は、1月下旬からはじまる。



「バン」 ツル目クイナ科（留鳥）全長32.5cm

生息分布：奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島
・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島

全身が黒っぽく見える鳥で、くちばしの先端が黄色で、残りのくちばしから額にかけて（額板）は赤色で目立つ。若鳥は、全身がかっ色で下面は白っぽく、くちばしは赤みがなく緑かっ色である。全国的に繁殖していて、水田や池、川などの湿地に生息しているが、奄美群島では近年の急速な水田などの湿地の減少に伴い、数が減少している。



「カワセミ」 ブッポウソウ目 カワセミ科（留鳥）全長 17 cm

生息分布：奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島
・喜界島・徳之島・沖永良部島

頭や翼の上面、尾は金属光沢のある青緑色で、背から尾にかけては鮮やかな青色、下面は全体が橙色で足は赤色の非常にきれいな鳥。川や海岸の杭や石の上に止まり、水中の魚をねらい急降下してとる。



「イイギリ」 イイギリ科 分布：本州以南

日当たりのよい谷筋などや斜面下部などに生える落葉高木。樹幹は直立し、枝は放射線状にでるので樹形だけで見当がつく。葉身は、卵心形で長さ10～20cm、花は帯緑黄色で芳香があり花弁はない。果実は球形で径8～10mm、落葉期に橙赤色に熟す。



§ 2002. 1. 25 (金) 「カワセミの探餌」

午後1時25分頃、センター近くの大和川でパンの姿をよく見かけるので、写真を撮ってみようと川へ向かったところ、パンは車を見るなりすぐ近くの草むらに隠れてしまいました。パンが出てくるまで待ってみようと川の近くに車を止め待っていると、「チッチッチ」和鳴きながらカワセミが飛んできて、川の真ん中にある木の枝にとまりました。カワセミは何度か見かけた事がありますが、間近で見たことはなかったので、パンはそっこのけでカワセミの様子を夢中で見ていました。ブルーとオレンジがとても鮮やかで、川ではとても目立っていました。幾度か川へ飛び込み、川岸の枝にとまっては餌をとって食べている姿を生で見て感動していると、飛び立ち、車のすぐ近くの石にとまりました。「今だ！」と思いシャッターを押しました。カワセミは少しこちらを気かけながらも、川をジーツと見つめ餌を探していました。とても身近な川で鳥の探餌姿を見ることができんだなあという発見と、今まで気づかなかった事を反省しながら、楽しく思い出深い1日を過ごすことができました。



§ 2002. 1. 27 (日) 「4羽のパンを目撃」

午後1時07分頃、カワセミの姿を見た2日後、「今度こそパンを撮ろう！」と勢いづき川へ行くとパンが2羽いました。しかし、車に気づきすぐに草むらに隠れてしまいました。とても警戒心の強い鳥だなあと思いつつしばらく待っていると、おそろおそろ顔を出し周囲の様子を伺いながら草むらから出てきて川の中へ入りました。1羽は少し色が薄く、くちばしの赤色と黄色がはっきりしていません。親子かな？と思いつつ見ていると、川の真ん中までやってきて頭を突っ込み水草を取って食べ始めました。体半分は水中で尾と足は水面から出し水草を取っている姿はとてもこっけいでした。しばらくして他を見てみると、もう2羽のパンも川で探餌中でした。合計4羽のパンはのんびり食事をしていました。その後、天気の良い日に川を覗くと必ずパンの姿を見ることができます。餌場なのか、近くに寝床があるのかは分かりませんが、その道を通るたびに川を見るのが楽しい日課となりました。 (報告：センター・里)



カンヒザクラ（ヒカンザクラ）「バラ科」が満開

大和村企画課長 中島秋彦

奄美大島最高峰の湯湾岳麓にある福元盆地（大和村）内に整備されている、奄美フォレストポリス（森林公園）の水辺の広場内にカンヒザクラが2月6日、満開に咲いているのを確認しました。ふれあい広場では昨年12月に満開になったカンヒザクラもありました。園内には300本のカンヒザクラが植えられていて、10年後には花見の名所になることでしょう。

大和村役場裏山に、5本のカンヒザクラがあるが同じ日に満開になっていて、毎日のように十数羽のメジロが飛んできて花の蜜を忙しそうに吸っています。

奄美の14市町村でもカンヒザクラがそれぞれ咲いていると思いますが、開花時期が、市町村ごと、また、同じ市町村の中でも場所によって開花時期が違い、奄美では長期間、沿道や野山・公園等で赤やピンクなど色とりどりのカンヒザクラが楽しめます。

奄美フォレストポリス園内



大和村役場裏山



野生の植物を野生のままに

奄美の山には多くの希少な野生植物が自生しています。ところがこれらの植物も森林の伐採とともに減少したり、一部の愛好家や業者によって盗掘されるなど、減少に歯止めがかかりません。野生生物が野生の状態ですぐ安定して生息・生育できる環境を取り戻すことは、わたしたちの住む奄美が、真の奄美であり続けるために不可欠です。

これまでの調査結果をもとに絶滅のおそれのある野生生物について、環境省ではレッドリストを作っていますし、鹿児島県でも県版のレッドリストを作成中です。

奄美は小さい島々である上に固有な野生生物が多く生息しているので、ただでさえ絶滅のおそれの大きいために、多くの種がレッドリストに登録されています。でも、自然環境が回復したり、盗掘がなくなることで、絶滅のおそれを免れることができるようになるかもしれません。現在、希少といわれる動植物でも、山野に入れぼどこにもあるような島になればいいと思いませんか。1種でも多くの種がレッドリストからはずされるようにしたいものですし、そのためには島に住むわたしたちから、保護の機運を高めていきたいものです。



フジノカンアオイ



クスクスラン

奄美に自生する美しい花や希少な植物は、自分の庭で栽培するのではなく、野山にそっと咲かせておいてあげましょう。

編集後記

はじめまして、1月5日から協議会の事務をしています永野です。最初のニュースレターを作成することになり、野生生物保護センターの自然保護官の阿部さんと事務の里さんの協力によって編集することができました。お気づきの点がありましたら、次回からの季刊紙の編集に役立てたいと思いますので、ご意見、ご感想をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。

í 日 時：2002.1.21 11:0
種 名：オーストンオオアカゲラ
発見場所：大和村（大棚）
状 況：ドラミングのみ
(村上)

í 日 時：2001.11.22 13.:45
種 名：アサギマダラ
発見場所：住用村（山間）
状 況：林床をゆったりと
飛んでいた。
(中村)

í 日 時：2001.11.17 11:00
種 名：マガモ、コガモ、ヒドリカモ、コサギ、テングチョウ
発見場所：瀬戸内町（諸鈍）
状 況：(森下)

í 日 時：2001.11.16 18:00
種 名：リュウキュウコノハズク
発見場所：瀬戸内町 徳浜海岸近くの山
状 況：
(森下)